

水辺の 環境



アカササゲ

マメ科ササゲ属 *Vigna vexillata var. tsusimensis*

アカササゲは、川岸の草地や低地、丘陵地の林縁に生えるつる性の多年草です。花期は9~10月で、そのころになると青紫色(のちに褐紫色に変化)の花を2~4花つけます。花の大きさは25~30mm。葉は長さ6~12cmほどの3つの小葉からなり、両面に黄褐色のあらい毛が生えています。マメ科特有の果実である豆果(とうか = さや)は線形で長さ8~11cm、褐色の毛が密生し、10~16個の種子が入っています。

主に中国、朝鮮半島、九州に分布していますが、日本における自生地は非常に局地的で個体数も少なく、クズなどの草本類による侵入や人為的な影響を受けやすいことから、環境省のレッドリストでは絶滅危惧IA類に指定されています。また、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県の各レッドデータブックでも同様に絶滅危惧I類^{*}に相当するカテゴリに指定されており、絶滅の危険性が大きい種として知られています。大分県では、日田市で県内初の自生地が確認されていましたが、その後、豊後高田市^{ぶんごたかだ}でも大規模な自生地が確認され、新聞記事にもなりました。



大山ダム(現在、試験湛水中)では、事業実施区域内に自生していたアカササゲが、工事により直接的な影響を受けることから、専門家の指導・助言を得ながら、移植^{ほしゆ}や播種による保全対策を実施してきました。また、昨年度からは、事務所の壁を利用したアカササゲによる緑のカーテンづくりにも取り組んでいます。

※レッドデータブック統一カテゴリ相当

参考文献：「日本の野生植物(草本II)」 平凡社 1982年

「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物I及び植物IIのレッドリストの見直しについて」平成19年8月3日報道記者発表資料(環境省)

環境省自然環境局 生物多様性情報システムホームページ

レッドデータブックおおいた2011 ー大分県の絶滅のおそれのある野生生物ー 大分県生活環境企画課

「大山ダムにおけるアカササゲの保全対策」村田裕、五島孝利 ダム技術 No.281, 2010. 2